

# 平成 29 年度 発達障害医学セミナー

「顕在化しにくい発達障害の早期発見と支援に向けて」



【日時】2017年8月26日（土）～27日（日）

【場所】青山学院大学青山キャンパス 4号館 420教室

【参加者】156名

【コーディネーター】稲垣真澄（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部）

【主催】公益社団法人 日本発達障害連盟

## ■ プログラム

---

(敬称略)

8月26日(土) 10:00-17:35

学習障害の基本を理解する

原 恵子(上智大学 言語聴覚研究センター)

学習障害の早期アセスメントと支援

北 洋輔(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

不器用な子ども～DCDという視点からの理解と支援～

中井 昭(兵庫県立リハビリテーション中央病院 子どもの睡眠と発達医療センター)

吃音症の基本を理解する

菊池 良和(九州大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科学講座 九州大学病院)

吃音症の早期アセスメントと支援

原 由紀(北里大学医療衛生学部リハビリテーション科 言語聴覚療法学専攻)

8月27日(日) 9:30-13:20

チックの基本を理解する

松田 なつみ(東京大学 医学部附属病院 こころの発達診療部)

チックの早期アセスメントと支援

藤尾 未由希(東京大学 医学部附属病院 こころの発達診療部)

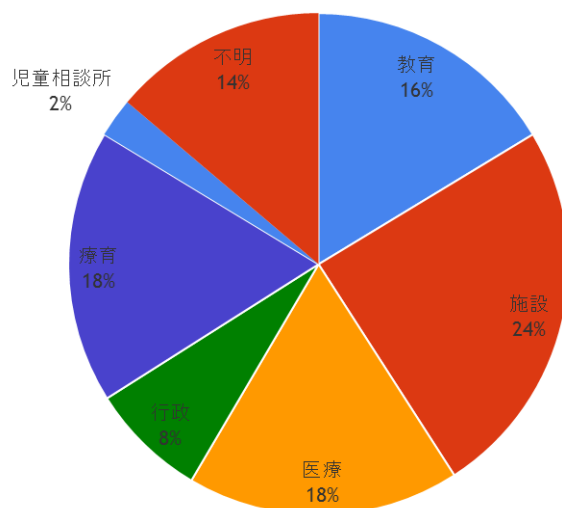
自閉症スペクトラムの子どもへの感覚・運動アプローチ

岩永 竜一郎(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻)

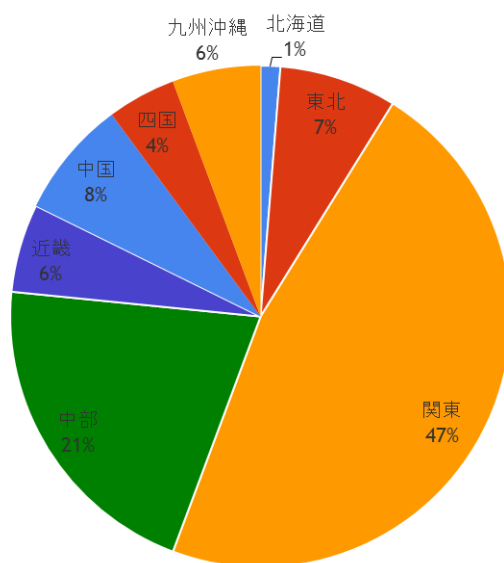
## ■ 参加申込状況

---

### ■ 所属

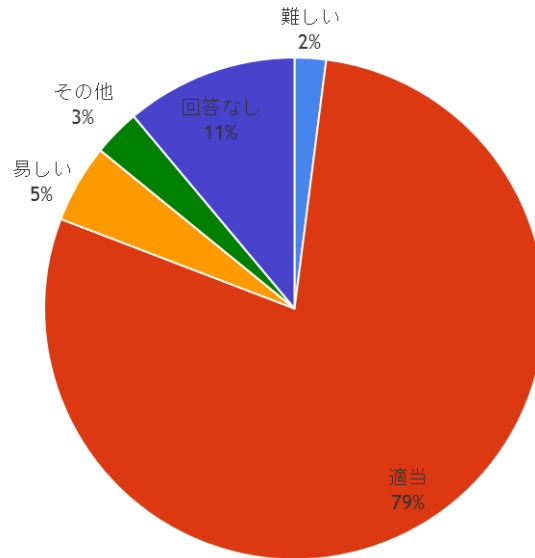


### ■ 在住都道府県

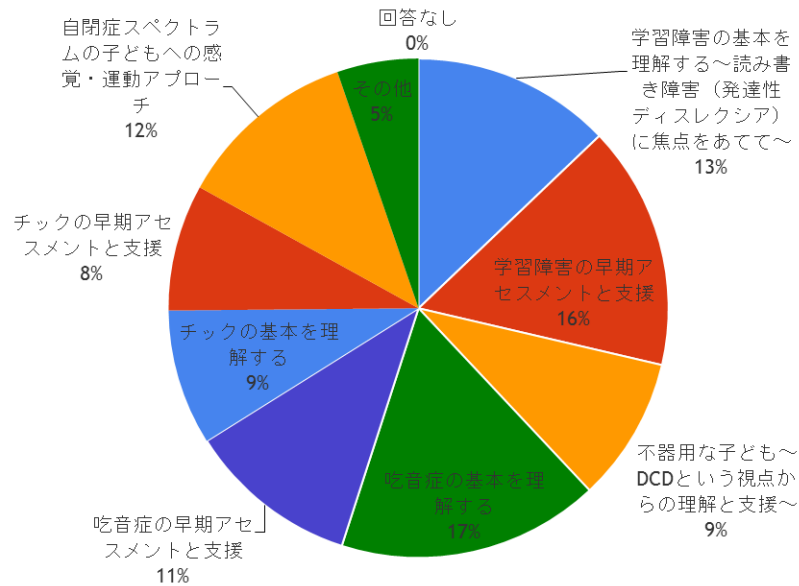


## ■ 参加者アンケート（回答 99 名）

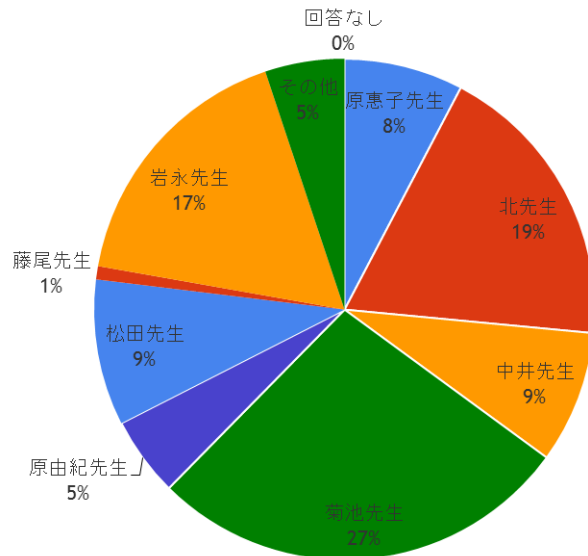
### ■ 内容について（難易度）



### ■ 最も関心が高かったテーマ（複数回答）



## ■ 最も印象に残った講師（複数回答）



## ■ 参加者の皆様からの声

「"顕在化されにくい"というタイトル通り、あまりチャンスがなかったものについて、テーマごとに新しい知見の総論と具体例の講義が聞けてとてもわかりやすかった。」

「学習障害のアセスメントが幼児期で可能であること、幼児期の遊びの中で支援を行う事が、入学後の負担を少なくすることがわかった。」「協調や感覚の問題が"体"のみのことにとどまるイメージがあったが、コミュニケーションの問題にまで深くかかわっていることに驚き、現場でのケース理解もより視点が広がり気づきが増した。」

「"吃音をオープンにする事がいい事という情報がない"、学校の生徒へ配布する資料はとても参考になった。」

「コメディカルの立場で子どもを捉えようとする保護者への助言や関係機関との連携がとても難しいと考えていたが、抱え込まずに色々な機関と協力できるようにしたいと思った。」

「吃音のお子さんのお母さんの映像。なんとかしてあげたいけど触れられない。発達障害を持つお母さんも同じような葛藤があるのではないかな。障害や疾患を正しく理解することが子どもたちの救いになるように思った。」

## ■ 最後に

ご参加、ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

今回のテーマ「顕在化しにくい発達障害」は、学習障害、吃音、チック、DCD、感覚統合など、多岐にわたる内容でしたが、どの講義も、いろいろな立場から支援に関わっている講師による専門性の高い最新の研究、動画を含む事例や臨床の知見を含み、実際の支援に役立つ、幼児期へのアプローチの大切さを再確認した、学びの多いセミナーとなりました。

なお、本セミナーの講演の内容は、日本発達障害連盟発行の「発達障害医学の進歩 30」に収録されます。